



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

1992.1.1 No. 3517

○歴史が動き始めた

「この好機を逃さず、反転攻勢へ！」— 新たな年の劈頭にあって、われわれは、このスローガンを高々と掲げることができる。歴史が大きく動き出した。時代が、猖獗をきわめて激しく変動をはじめた。ひとつの時代が過ぎ去った後で語ることはたやすいことかもしれない。しかし、激しい諸事件がしびきをあげてぶつかり合う、歴史の転換点の最中において、何を決意し、その道ゆきにどのような方向を定めることができるか

○労働者こそが 変革の担い手として

「湾岸戦争」に始まった九一年は、ソ連邦の崩壊・消滅で幕を閉じた。このようなことを誰が予想しただろうか。戦後四十数年間にわたる米・ソを軸とした世界体制が、蓄積された矛盾を一挙に噴き出しながら、落日を迎えている。この嵐は、全てのものをのみ込んで進んでいる。社会全体がとつもない地殻変動を開始しているのだ。分裂と対立と危機の噴出、戦争の危機がすごい勢いで増殖してきている。

○針路を見失った 者は誰か

「JR体制」も世界・日本をめぐる激震と期を一にして、激しく揺らぎはじめた。 “JR総連互解”の火の手は、すでに革マル・松崎の牙城東日本の足元にまで及んでいる。資本にこびへつらい、魂まで売り渡したJR総連・革マルは、飼い主によって捨て去られるという、最も相応しい末路をたどったのである。

春闘

○総破産した 分割・民営化

そればかりではない。国鉄分割・民営化は、五年目にして、「総破産」とも言うべき状況にたち到った。バブル経済の終焉に伴って、株式市場が不可能となり、累積債務問題の解決が、完全に暗礁に乗り上げたことを発端に、新幹線保有機構の解体と「鉄道整備基金」の発足、JRの経営危機の表面化、

○好機到来！92年を 反転攻勢の年に

JRは、こうした状況に直面して、堰をきったように、「第二の分割・民営化」とも言うべき大合理化攻勢を開始している。われわれは、すでにこの攻撃に対し、昨年十一月・十二月六ストをもって、反撃の闘いの火ぶたをきっている。全国の国鉄労働者の怒りを代表して闘いぬかれたこのストライキは、火花となり、種子となつて、全国の職場に飛び散った。そして、ほとぼる炎となつて、燃え上がる日を待っているのである。

一九九二年一月二日

国鉄千葉動力車労働組合
執行委員会